

# 英語科学習指導案

日時 平成27年6月4日(木) 公開授業 I  
学級 岩手大学教育学部附属中学校  
2年D組 39名  
会場 1A3A 教室  
授業者 山崎 健志 ALT ネム オロル

## 1 単元名 LESSON 3 “For Our Future” (NEW CROWN ENGLISH SERIES 2)

## 2 単元について

### (1) 生徒観

生徒はこれまでに、春休みの思い出や自分の成長についてのエッセイ・道案内、好きなことの原因についての問答など、聞く話す活動から読む書く活動まで、4技能を統合的に扱った学習を進めてきた。いくつかの LESSON の後に設定されているミニプロジェクトをそれまでの学習のまとめとし、学習してきた言語材料を総合的に使用できるような活動を仕組んできた。また、各 LESSON の中にも総合的な活動を意識的に仕組んできた。

昨年度1年間の英語学習では Myself をまとめの活動とし、自分自身のことや友人・学校行事など、自分に関わることなどについて、英語で表現できることを目標とし、段階的に活動に取り組んできた。

ペアワークやグループワークの際には、未習の表現でも必要に応じてフレーズとして導入し、実際に使用させながら、場面や状況に応じた英語を使えるように指導している。

LESSON 3 の事前実施したアンケート結果から、生徒の環境についての知識・意識については図1のとおりである。「環境問題について知っていることは？」という問いには約89%が地球温暖化と回答している。一方で温暖化につながる要因や温暖化により引き起こされる事象等について触れている生徒は多くはない。

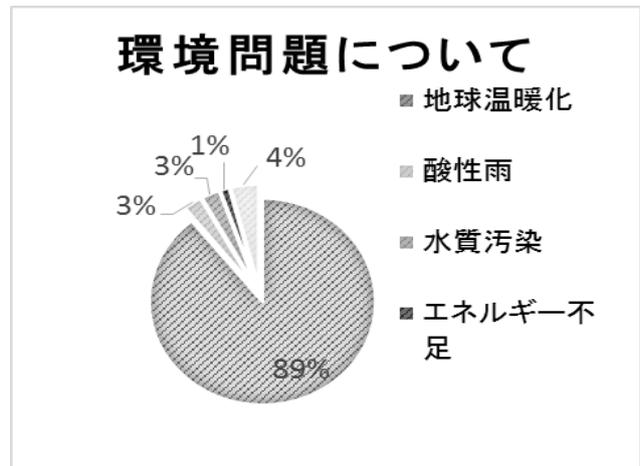
また、「環境問題を解決するためには？」という問いには「個人の意識が大切」という回答が最も多い一方で、「身近なところで環境問題を意識して取り組んでいることがあるか？」という問いには、約34%の生徒が「ない」と回答しており、環境に関する生徒の知識・意識はまだ漠然としていると考えられる。(N150)

生徒は2年生の地理で環境問題の概要を捉えるような学習をしている。地球温暖化という用語は出てきているが、その原因と考えられることや温暖化に関わる諸問題等については触れられない。

また、家庭科では、フェアトレードを題材に消費者としての責任の一端を学び、その後、自己の生活を見直す学習を通して環境について考える。英語科本単元での学習では、地球に起きている大きな問題を通して、身近な生活の中にあるムダに目を向けさせて課題意識を持たせたい。その後、身近なムダを一人ひとりが調査し、レポートをまとめる。この学習を通して、大きな問題を解決することは難しくても、自分自身ができることを行動に移すことの大切さに気づくことができると考える。

これまでの表現活動としては、主にスピーチ・ペアでの対話練習・発表・音読など、インプットをもとに、既習事項を織り交ぜた練習を経てアウトプットする活動を行ってきた。常に言語の使用場面や状況を意識させながら学習できるように意図している。また、スピーチ直後の質疑応答やテーマを与えての1分間対話など、必要な時に即時に表現を発話したり、状況に合わせて柔軟に表現を使用する等の力の育成については現在指導中である。

「英語を活用して主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」を目指し、今後も引き続き指導にあたりたい。



[図1]

## (2) 教材観

本単元の題材内容は「地球環境の未来」である。これまでの単元では、「過去形の復習」や「be動詞の過去形」について学習している。現在形の表現のみを用いて自分に関わる様々な表現を学習してきた生徒にとって、過去形や未来の表現を身につけることで、表現の内容に時間の幅ができ、さらに豊かな活動ができると考える。本単元で学習する表現自体も、既にティーチャートーク等で耳にしてきているものであるため、音声的にはさほど抵抗なく発話できると考える。

言語材料としては「未来の表現(will/be going to～)肯定文・疑問文・否定文」「接続詞when」「I think(that)の文」を扱う。初めて学習する「未来時制」ではあるが、昨年度「助動詞can」を学習しており、用法についてはさほど困難なく理解できると思われる。また、be going to～についてもbe動詞の文と同様に疑問文や否定文を作ることができるうえ、助動詞のような表現としてとらえることも可能である。しかし、新出の表現ではあるので、できるだけ既習事項と関連付けながらのインプットやアウトプットを意識し、実際に自分のことを伝えたり、ペアやグループで質問・応答する等、何らかの課題を解決するための活動を通して定着を図りたい。

文法についての説明はまとめのページで扱うこととし、これまで通り、インプットを繰り返しながら必然性を伴った場面や状況で、既習事項を組み合わせた効果的なアウトプットを仕組むことで、言語材料の定着を図るとともに学習した表現を適切に活用できる力をつけていきたい。

単元の学習内容や言語材料のみにこだわることなく、できるだけ生徒が興味・関心をもって取り組めるような活動を仕組むことで、生徒が自ら既習事項を振り返り、選択・活用し、スパイラルな学習ができるような力をつけたい。

なお、本題材は学習指導要領の次の目標に対応する。

- |        |   |
|--------|---|
| イ 話すこと | (ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなど<br>すること。                              |
| ウ 読むこと | (オ) 話の内容や聞き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したり<br>などすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。 |

## (3) 学びの本質（英語科）について

本校英語科の最終的な目標は「英語を活用して主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」である。生徒が学びに対して目的をもって主体的に取り組み、継続させ、スパイラルに学習を積み重ねることで最終的な生徒の目指したい姿へと近づくと考える。本研究では特にも次の2つの視点に重点を置き、指導実践と改善にあたる。

- |   |
|---|
| ① コミュニケーションツールとして実際に使用できる実感を持ちながら知識を意欲的に習得する<br>生徒の育成 |
| ② 必要な時に即時に表現を発話したり、状況に合わせて柔軟に習得した知識・表現を活用する<br>生徒の育成  |

この2つの力は密接に関わっているものである。土台となる基礎基本としての知識を定着させていくことはもちろん大切であると同時に、実際のコミュニケーションにおいてはローカルエラーよりも、いかにして関わろうとするか、関わり続けようとする態度が重要である。教師も生徒も正確性を意識するあまり、間違いを恐れる消極的な態度や雰囲気を作ってしまうのは、言語の学習にはマイナスとなる。そこで、教師の「正確さと流暢さ」のバランスへの留意が大事な視点となる。英語力として共存している知識とコミュニケーション能力の両面を大切にしながら指導に当たりたい。基本的には、学習する表現をその時間や単元に限らずに繰り返し扱うことで、生徒の発話や筆記の量は増える。また、生徒の興味関心に訴える課題や表現を使用するための適切な場面を設定することで、単なる繰り返しではなく、必然性を伴った表現として定着が図られると考える。様々な表現を、場面や必要に応じて使用する経験を積み重ねることで、生徒は自信をもって表現する態度を身につけていくものと考えている。

表1 2学年の年間英作文テーマ“My Dream”の表現活動に至るまでの学習デザイン

# 第2学年 英語 最終表現活動テーマ

総合学習		単元	主な言語材料	主な題材	主な表現活動
2学年 【他者から学ぶ】 テーマ『「誠をもって働く」とはどのようなことか』	4	1 入学式 2 対面式 3	LESSON 1 Aloha!	一般動詞の過去形 ハワイの伝統文化 春休みの思い出 (絵日記)	【絵日記】(Writing) 春休みの思い出
	5	1 学生会 2 3 4	LESSON 2 A Calendar of the Earth	be動詞の過去形 過去進行形 接続詞 when	【自分史エッセイ】(Writing) 誕生から現在まで
	6	1 市中総体 2 3 4	LESSON 3 For Our Future	未来を表す表現 接続詞 that	【地球環境の未来について考えよう】 What do you think about the earth? (Speaking)
	7	1 校外学習 2 県中総体 3	LESSON 4 Enjoy Sushi	There is [are] ... 動名詞	【プレゼンテーション①】 岩手のおすすめと良さを伝えよう
	8	1	Let's Read 1 A Pot of Poison	読み物 (ドラマ)	【英語劇】
	9	1 市内中学校陸上 2 新人戦 3 校内スポーツ大会 4	LESSON 5 My Dream	不定詞	【私の夢】(Speaking) 将来の夢ややりたいこと
	10	1 2 3 4	LESSON 6 Uluru	give + A + B lookなど + A	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手意識 (Speaking)</li> <li>これからを見つめる</li> <li>スピーチの構成</li> <li>未来時制・不定詞</li> <li>その他、既習表現すべて</li> </ul>
	11	1 文化祭 2 生徒会役員選挙 3 県中新人戦 4	LESSON 7 Good Presentations	比較	【プレゼンテーション②・③】 <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートや調査をして発表しよう</li> <li>他国紹介～おすすめの国は?</li> </ul>
	12	1 2 3 4	LESSON 8 India, My Country	受け身形	【他者から学ぶ】(Reading) 何かのために生きる人の生き方に触れる
	1	1 本校入試 2	Let's Read 2 Landmines and Aki Ra	読み物 (平和)	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の人生、夢に触れて感じた ことを交流する (Writing)</li> </ul>
2	1 スキーコース 2 3 4	まとめ My Dream		【私の夢②】 これまでの自分、今の自分、これからの自分を見つめる	
3	1 卒業式 2 修了式			<ul style="list-style-type: none"> <li>相手意識 (Writing)</li> <li>既習表現すべて</li> <li>自分の成長の自覚</li> </ul>	

## 【最終 表現活動テーマ】

# My Dream

### 3 単元の指導目標

#### (1) 指導目標

- ①既習表現を用いて環境について調べたことを伝えられるようにする。
- ②未来の表現や自分の考えを適切に表現できる。
- ③未来 (will / be going to~) を表す肯定文, 疑問文, 否定文, の意味・構造が理解できる。

#### (2) 評価規準

外国語表現の能力	① 既習表現を適切に用いて, 自分や友達の予定について話すことができる。 ② 環境に関する調査結果について自分の考えを交え, 英語で伝えることができる。
外国語理解の能力	① 自分や友達の予定について適切に問答できる。
言語や文化についての知識・理解	① 未来を表す表現を用いた文の意味・構造を理解している。 ② 接続詞thatを用いた文の意味・構造を理解している。

### 4 単元の指導計画および評価計画

時間	主な学習内容と学習活動	評価規準	評価方法
1	○本単元で学ぶ題材や身につける技能や理解する内容を知る。 ・本単元のゴールを知る。		
	○未来を表す表現(will)理解し, 使う。 ・天気予報の言い方を知る。 ・未来表現の疑問文・否定文の構造を理解し, 使う。	言知①	後日ペーパーテスト
2	○会議の案内ポスターを読む。 ・教科書本文の概要を理解する。 ・教科書本文を音読する。		
3	○未来を表す表現(be going to~)を理解し, 使う。 ○未来を表す表現(be going to~)の疑問文の構造を理解し, 使う。 ○既習表現とともに未来を表す表現を使う。	言知②	後日ペーパーテスト
本時			
4	○自分や友達の予定について対話をする。 ・教科書本文の概要を理解する。 ・教科書本文を音読し, ペアで対話を暗唱する。		
5	○接続詞thatの文の構造を理解し, 使う。 ・自分や友達の考えなどについて伝えたり尋ねたりする。	言知②	後日ペーパーテスト
6	○自分の考えや相手の考えを交えた対話をする。 ・教科書本文の概要を理解する。 ・教科書本文を音読し, ペアで対話を暗唱する。		
7	○環境について書かれた英文を読んで自分の考えを持つ。 ・本文の概要を理解する。 ・意見表明の仕方を参考に, 自分の考えを伝える。	表① 理① 言知③	VTR撮影
8	○地球環境についての意見を書く。 ・意見交流をもとに自分の考えを書く。 ・既習表現を活用し, 文法や語順に注意して文を書く。	言知②	文で評価

## 5 本時について

(1) 主題 学校行事について説明しよう ～ Let's explain about our school events! ～

### (2) 指導目標

既習の言語材料及び言語表現や本時に学習した表現などを用いて、英語でコミュニケーションをしようとする。

### (3) 本時の評価規準

本時では、観察評価及び形成的評価はするが総括的評価は行わない。後日行うペーパーテスト・パフォーマンステスト及び作成する課題英作文により総括評価をする。

### (4) 指導の構想

本時は、LESSON3 の GET Part 2 の 1 時間目（単元 3 / 8 時間目）である。導入ではティーチャートークから話題や新出表現をつかませ、本時の目標を認識させる。既習表現と合わせて新出表現を扱い、生徒が必然性をもって本時の表現を練習できるよう流れを工夫したい。最終的には、テーマの中から自己選択をした題材について自分なりに表現できるようにさせたい。

本時のポイントとなっている言語材料は「be going to+動詞の原形（肯定文・疑問文）」である。これを生徒が用いて表現をするために、日本の中学校の学校行事について知識のない ALT（フランス出身）を対象とし、彼女の疑問に答える形で課題を設定する。学校行事については昨年度タイの学生への学校紹介で触れており、生徒にとっては比較的身近な話題だと考える。また学校行事は、昨年度と同じものもあれば、そうでないもの（例えば、HS の学年プロジェクトでは、昨年度は岩手山登山だったが、今年度は校外学習となる）もあり、説明をする際には昨年度のことについても話題にする必要がある。また、今年度の 3 年生の学習旅行等についても、情報を持っている生徒は紹介することができると思う。既習事項と合わせて今後の予定について話をさせるためには、適切な題材と考える。

活動中は既習事項も含め、エラーが予想されるが、必要に応じて互いに修正させたり、教師によるリキャスト等を効果的に取り入れ、正確さと流暢さのバランスにも気をつけさせていきたい。また、本時の表現についても本時間内で身につけることを目指すのではなく、言語の使用場面や必然性を大切にさせながら今後も繰り返し使用させ、身につけさせたい。

(5) 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動	時間	■「学びの本質」とのかかわり
導入	0. 3分前学習 ・英語の歌を歌う。		
	1. あいさつ ・ 1 Minute Talk  2. Teacher Talk ・ 聞き取った内容、表現、場面等から本時の言語材料に気づく。	3  7	■与えられたテーマに基づいて即興で対話をする。  ■本時の活動の目的、課題を捉える。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> <b>学校行事について説明しよう</b>            ~Let' s explain about our school events!~         </div>		
	3. Step1 Talking ・ テーマについてペアで対話をする。 (昨年度の学校行事についての振り返り)	3	■既習の表現を使って対話をする。
	4. Step2 Drill ・ interactionをしながら本時の表現を練習する。 I'm going to ~. He / She is going to~. Are you going to ~? Is he / she going to~? What are you going to~?	15	■課題解決のために必要な新出表現を滑らかに言えるように練習する。
	5. Step3 Practice 今年度の附属中の学校行事について話す準備をする。 ・ 昨年度の行事を振り返りながら、自分で選択した今年度の行事について考える。 ・ 既習表現を適宜用いてペアと対話をする。	10	■わかりやすく説明するために必要な表現を考え、説明の練習をする。
	6. Step4 Challenge ・ 実際にALTへの説明を口頭で行う。	5	■既習事項を踏まえ、本時の表現とともに発話する。
終結	7. Step5 Writing ・ 本時に使用した表現を学習履歴シートに書いてまとめる。	3	■発話した表現を表記できるか確認する。
	8. Step6 Reflection ・ 本時を振り返り、「学習履歴シート」に記録する。  9. あいさつ	2	■本時の学習でできたことやできなかったこと、疑問等を自分自身で捉える。